

# 保育おおさか

# No. 469

平成 26 年 9 月 1 日

発行人 永野 治男 編集人 齊藤 和正

大阪市中央区中寺 1 丁目 1-54

TEL.06-6762-9001 FAX.06-6768-2426

http://www.ans.co.jp/u/osakahtoiku/

## 教育・保育のニーズに応じて 整備されていく保育内容

7月31日に第3回「保育士養成校と保育園との研究懇談会」がシェラトン都ホテル大阪にて開催され保育士養成校から82人、保育園から149人、合わせて231人が参加しました。第I部で話題提供、第II部では懇談会が行われました。



民秋 言氏

第I部では  
白梅学園大  
学・名誉教授  
の民秋言(た  
みあきげん)  
氏より「幼稚

園教育要領・保育所保育指針の変遷と幼保連携型認定こども園教育・保育要領のポイント」改訂の中にある変わる点、変わらない点と課題について」のテーマで話題提供が行われました。

民秋氏は、教育要領と保育所保育



シェラトン都ホテル 231人が参加

指針の変遷と教育・保育要領の成立に着目されていました。

戦後の就学前教育は、教育(幼稚園・福祉(保育)という「二元化」された状況で展開され、幼稚園の保育内容として「幼稚園教育要領」が、保育園の保育内容として「保育所保育指針」が策定されました。

昭和40年頃には、高度成長期を迎え、女性の社会進出、勤務の多様化により待機児童が増加し、保育ニーズが高まりました。

平成10年には、保育所は措置施設から利用(選択)施設に変わり、よりの質の高い保育サービスの提供が求められ、平成15年には専門職として保育士資格が国家資格化。

幼稚園においては、地域としての幼児教育センター的役割として、長時間保育(預かり保育)に努めるようになります。子ども、親(家庭)を取り巻く社会環境の変化により、保育内容が見直され、要領の改訂が施されてきました。

幼稚園と保育園が現代のニーズに応じて保育内容を整備していく一方で、社会構造の著しい変化を背景として、就学前の子どもの教育・保育のニーズが多様化し、就学前の教育の一つの変化の形として「幼保一元化」が求められ、幼児期の総合的な教育・保育を提供する「認定こども園」が創設されました。これに伴い、「幼稚園教育要領」と「保育所保育指針」を同時に改訂。

平成25年には、「子ども・子育て支援新制度」の検討が始まり、新たな「幼保連携型認定こども園」の議論にあわせて、平成26年4月に「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」が策定されました。

その要領の特徴について民秋氏は、「幼稚園教育要領」と「保育所保育指針」との整合性が保たれ、生涯にわたる人格形成、生きる力・義務教育の基礎を培うこと、小学校教育との円滑な接続をもち子どもの発達や学びの連続性の確保、教育・保育の基礎を培うこと、幼保連携型認定こども園として特に配慮すべき事項として一人ひとりに応じた教育及び保育の展開・保護者の就労スタイルに応じた利用の配慮があげられる」と強調しました。

第II部では、各テーブルにおいて、養成校と保育園のそれぞれの関係者が活発に意見交換を行いました。

(編集委員 Y・S)



鹿児島県知覧を訪ねました。資料館には、苦しい戦争の歴史と若き特攻隊員の手紙など、その一つひとつに胸

打たれる物語がありました。特攻隊員の母のような存在だった鳥濱トメさんに、夜遅くまで熱く語った「自分の夢と家族への思い」そして必ず「国の為に頑張ってください」と出発して行った「こころと言葉の重さ」。

自分以外の人のために果たすべき役割や、温かいこころの実践だったのだと思いますが、言い換えれば倫理観と言えなものなのかもしれません。

一方、この頃のニュースは自分中心で友達も家族も、その命でさえ無視してしまうような内容のものが氾濫しています。あらためて育ちとは何か、育てとは何か、ということを考えさせられます。

日々の家庭生活や保育は、自分を大切にしながらも、人と協調しながら、こころをつなげることが大切です。

この原点を忘れぬよう、隣で呑気にスマホをさわっているわが娘にもしっかり教えないといけません。

(編集委員 C・T)

# 認定子ども園への移行意向調査 速報値示される

8月11日、ホテルプリムローズ大阪にて平成26年度、第2回大阪府子ども施策審議会・計画策定部会が開催されました。

初めに「大阪府子ども総合計画(素案)」の概要と本計画(素案)及び事業計画(素案)について、説明がありました。

続いて、「新制度の施行準備の状況」について報告がありました。全体として

国からの情報や説明などが遅れていることが報告されました。そのため大阪府の「認定子ども園等にかかる条例」案の上程も9月議会にずれ込む予定です。「認定子ども園等にかかる条例及び審査基準の一部改正(案)」に対する府民意見等の募集について「などのパブリックコメント」が出され、9月

議会の日程に向け、実施されました。

また会議では、私たちの一番の関心事である大阪府内の「認定子ども園への移行意向調査の結果概要」の速報が示されました(図1)。

これを見ると、私立幼稚園からの移行希望は16・1%、私立保育園からの移行希望は25・5%です。こ

## 認定子ども園への移行意向調査の結果概要

○ 私立幼稚園からの新制度(認定子ども園・施設型給付の幼稚園)への移行の意向について(図1)

	27年度	
幼保連携型認定子ども園	35	9.4%
幼稚園型認定子ども園	25	6.7%
幼稚園(施設型給付)	21	5.6%
検討中	28	7.5%
幼稚園(私学助成)	263	70.7%
合計	372	100.0%

○ 私立保育所からの認定子ども園への移行の意向について(図1)

	27年度	
幼保連携型認定子ども園	201	22.5%
保育所型認定子ども園	27	3.0%
検討中	135	15.1%
保育所	530	59.4%
合計	893	100.0%

○ 既存の認定子ども園の新制度での意向について(図2)

27年度の意向	現在の類型			合計
	幼保連携型	幼稚園型	保育所型	
現在の類型のまま	15	0	0	15
類型を変更する	幼保連携型へ	0	6	5
	幼稚園型へ	5	0	0
認定を返上する	16	0	0	16
合計	36	6	5	47

大阪府 福祉部子ども室子育て支援課  
福社審議会計画策定部会資料  
(平成26年8月11日大阪府子ども施設審議会資料)

園からの移行希望は16・1%、私立保育園からの移行希望は25・5%です。これらの理由としては、新制度の詳細設計が全体的に遅れていることから、制度の全容がわかりにくく、市町村の対応がその影響を受け、遅れていることによるものと推察します。

## 子ども・保護者と丁寧に関わり「愛着」を育てる



倉石哲也氏

7月22日に大阪社会福祉指導センターにて「地域貢献支援員(スマイルサポート)フオロアップ研修」が開催されました。研修会では武庫川女子大学・教授の倉石哲也氏が「個別に配慮が必要な保護者の理解と対応へ「愛着」を軸に考える」をテーマに講演。以下はその要旨です。

愛着とは一般的に「子どもと養育者の間で交わされる情緒的交流」のことを指します。保育の世界でいうと「子どもが不安を感じる、危機的だと感じる状況で特定の養育者との間で情緒的安定を取り戻そうとする行為」です。子どもが楽しい時は通常で良いが、子どもがそういった行為を行った時、愛着をもって手助けすることがとても大切です。子どもは養育者に合わせて愛着の表現を変えるので養育者が複数いることは特に問題はありません。愛着

を越える参加をいただき、会員の皆様の興味の深さを実感するとともに、今後このような機会を設けられればと考えています。新制度上での施設のあり方は、会員施設の皆様自身において決めなければならぬことであり、その判断の一助になればと思います。(副部長・森田信司)

関係は就学前までなら日常的な関わりの中で修正、改善できます。しかし、それ以降になると、困難になるため、保育園での関わりはとても重要です。また、保育園は子どもだけでなく、保護者にとっても「安全基地」になることが大切です。家庭の話や個人的な話などが保護者から出てくるようになると、それは保護者にとって「安全基地」になっているという証です。大人の愛着表現は自分の弱い部分(愚痴など)を話したりすることだからです。他にも、保護者との共通ユーモアを持つて波長を合わせてみることも有効な手段です。(事務局)

ものとは推察します。一方、「既存の認定子ども園の新制度への移行について」の結果(図2)では、「現在の類型のまま」が3割程度、「認定を返上する」も3割程度であるという結果が出ています。こうした動きは、先日、マスコミでも報じられたように新制度施行日が平成27年4月であるにもかかわらず、いまだ

に決まらないことが多いことや説明不足などによるものが影響しているのではないかと考えられます。保育部会では、これらに対応するために8月20日、21日に社会福祉施設経営者部会と保育部会の共催で、大阪府からの行政説明などの内容で、「子ども・子育て支援新制度説明会」を実施しました。両日ともに定員

を越える参加をいただき、会員の皆様の興味の深さを実感するとともに、今後このような機会を設けられればと考えています。新制度上での施設のあり方は、会員施設の皆様自身において決めなければならぬことであり、その判断の一助になればと思います。(副部長・森田信司)

# おひさまと仲良し! 風と仲良し! どろんこ大好き!

異年齢の育ちあいを大切に、  
自ら伸びる“根っこ”を育てる

吹田市

もみの木保育園

園長の菊池一人先生は、「太陽の光、豊かな土や水、そして何よりも、まわりの人々の愛情が『根っこ』の栄養素となります。日々の生活を重視し、ゆったりと

泥んこ遊びでは、年齢に応じたダイナミックな遊びも工夫されています。4・5歳児になるとサッカー遊びに取り組み、敏捷性、柔軟性、さらには保育サッカー大会に参加するなど、協同性、社会性も養います。0歳児から5歳児までの乳幼児と一緒に生活することと、子ども同士が育ちあうことを大切にしています。園庭で、年齢の違う子どもたち数人が手をつなぎ遊んでいる姿はほほえましい光景です。小さい子から大きい子までひとつの家族の中の兄弟、姉妹のように育ち合い生活します。



園庭で遊ぶ子どもたち

園長の菊池一人先生は、「太陽の光、豊かな土や水、そして何よりも、まわりの人々の愛情が『根っこ』の栄養素となります。日々の生活を重視し、ゆったりと

(編集委員 M・H)

園庭で遊ぶ子どもたち

園庭で遊ぶ子どもたち



親子サーキットお父さんも頑張っています

保育の特徴は、薄着や、ただし保育、マラソン、プール、リズム遊びなど、遊びながらの楽しいからだづくり。また、赤ちゃんの時から年間を通して散歩にどんどん出かけ、いろいろなものに自ら働きかける意欲的な子どもに育つようにと日々努力されています。

もみの木保育園は、吹田市の南部に位置しています。昭和34年財団法人灯火福祉会による木保育園として設立認可され、昭和55年社会福祉法人吹田みどり福祉会もみの木保育園となり現在に至ります。定員は60人です。

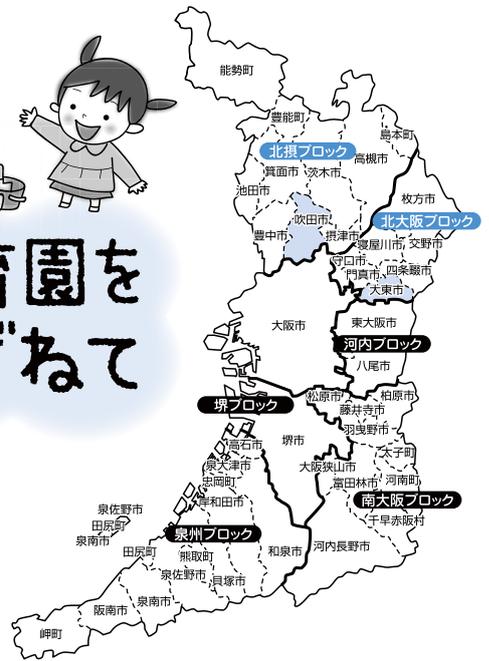


ダイナミックな泥んこあそび



保育園を  
たずねて

500



大東つくし保育園はJR学研都市線鴻池新田駅から徒歩5分の場所にある保育園で、今年の4月から定員が100人になりました。

大東つくし保育園はJR学研都市線鴻池新田駅から徒歩5分の場所にある保育園で、今年の4月から定員が100人になりました。

大東つくし保育園はJR学研都市線鴻池新田駅から徒歩5分の場所にある保育園で、今年の4月から定員が100人になりました。

大東つくし保育園はJR学研都市線鴻池新田駅から徒歩5分の場所にある保育園で、今年の4月から定員が100人になりました。

大東つくし保育園はJR学研都市線鴻池新田駅から徒歩5分の場所にある保育園で、今年の4月から定員が100人になりました。

大東つくし保育園はJR学研都市線鴻池新田駅から徒歩5分の場所にある保育園で、今年の4月から定員が100人になりました。



特養ホームでの交流会の様子

ふれあい・交わり・体験  
を大切に

異年齢・異世代・地域と交流

大東市

だいたう 大東つくし保育園

# 日常性を重視した保育で 子どもの能力を伸ばす

地域とともに前進する  
就学前組織として

堺市

しろやまだい  
城山台保育園

園のボランティアに参加した小・中・学生には感謝状としてがんばりカードを贈与などやる気喚起の工夫が随所に見られます。保護者とのかわり方は、職員との協働を重視する意味でPTA組織として運用され、その延長線上に「パパさんの会」も自主的に発足し、駐車場管理や園内の清掃活動、菜園活動などもかわってくださるとのこと。保育の進め方の面では「ジョイント活動」といわれる子ども同士の日常的な先輩力発揮や、園内清掃などの生活力発揮が子ども同士の継承と能力アップにつながっているようで、一人ひとりの動きが積極的で、元気なあいさつにたくさん出会いました。

年間活動も日常性を重視した取り組みをめざしており、運動会的活動「しりとりピック」文化的な活動「ミニミニライブ」などは、名称のユニークさとともに年間各3回実施するなど独自の展開を図っておられます。また看護師による保健対応力、栄養士による食育機能アップなどの前向きな展開も拝見しましたが、職員の休暇100%取得の継続や、保育・教育内容についても一層向上を図りたいと話され、重谷雅生園長先生の意気込みを感じました。

(編集委員 S・S)

たつのおか保育園は公立園2園を民営化し、和泉市三林町に今春開園したばかり。風通しの良い丘の上に、地域に愛される保育園を目指し、定員150人でスタートしました。広い園庭やホール、明るい吹き抜けのランチルームもあり、子どもたちがのびのび楽しく過ごせる環境は抜群です。いろいろな経験ができるよう、外国人講師による英語、年間通して行うスイミング、歌唱・マーチングなど専門の講師の指導も取り入れられ「知育・徳育・体育・食育」を軸に「情操・創造力の豊かな子、人の話をしっかりと聞く子」を目標に、保育をすすめておられます。特にこだわりを持って考えられたクラス名を教えてくださいました。



明るいランチルームで楽しく給食やおやつをいただきます

(編集委員 K・A)

光のもとにわかばが芽吹き、いのちがめぐる。光のもとにわかばが芽吹き、めぐり続いていくという願いが込められています。小さな一歩を大切にしながら、職員一丸となり「話をしっかりと聞ける子」を育てていきたいという熱い思いが伝わってきました。

城山台保育園は泉北高速鉄道の光明池駅から徒歩15分、閑静な住宅地にあります。平成23年に園舎建て替えをされた、定員130人の保育園です。



太陽光発電と地下駐車場が、ひとときわ目を引きまします



## 保育園を たずねて

501



週1回スイミングスクールで体力づくり

## 光のもとにわかばが芽吹き、いのちがめぐる

知育・徳育・体育・食育を重視し、人の話をしっかりと聞ける子に

和泉市 たつのおか保育園



シリーズ●災害に備える取り組み

## 子育て世代への防災の意識調査の結果報告

大手前栄養学院専門学校

古川和子・畦岡悦子

今号から、大手前栄養学院専門学校、教授の古川和子氏と講師の畦岡悦子氏に「災害に備える取り組み」のテーマで4回にわたり連載していただきます。昨年度、会員保育園14園にご協力いただき、子育て世代の保護者を対象に防災に関する意識や、準備状況などについてのアンケート調査の結果、災害時に活用できる備蓄食品を用いたレシピについて紹介します。

平成7年に阪神・淡路大震災が起こり、その後平成16年には新潟県中越地震、そして3年前の東日本大震災。災害発生は突発的な出来事のため、これらの震災の発生以降、各自治体では「食料と水の備蓄」や「避難体制」など平時での災害時の備えについて啓発を行っています。

健康・栄養調査結果（図1）をみますと、関東地域や東海地域などに比べ、近畿地域では食料の備蓄が進んでいないことがわかります。大規模災害が発生した時は、日ごろの災害への備えが人の命をつなぐ大事な役目を果たします。災害発生に備え、災害弱者と言われる幼い幼児がいる家庭

（子育て世代）での防災に関する意識や備蓄の状況を把握して、これら世代への防災意識や行動の向上を推進するため、以下のようなアンケート調査を実施しました。その結果につきまして、「保育おおさか」の紙面を通じて、数回に分けて報告いたします。各園で職員や保護者の方々へ災害時の備えとして活用していただければ幸いです。

### 調査の対象と方法

大阪府社会福祉協議会保育部会会員の保育園を地域別に4つのブロックに分け、各ブロックから2〜4園の協力園を募り、合計14園の保護者を対象に、平成25年7月から9月にかけてアンケート調査を実施しました。調査の内容は、対象者の年齢、子どもの数、住まいの形態、防災の意識と食料の備蓄状況、家庭での避難体制に関する13項目です。全体の配布枚数と回収状況は表1のとおりとなります。

### 調査の結果①

アンケート調査に回答した人は、90%が女性で、年代では30歳代（図2）、子どもの数では2人が最も多い状況でした。また、住まいの形態は、1、2階建の住宅が過半数を占めています。

た。（図3）次に備蓄について「特に必要と思っている備蓄品は何か」を「主食」「副食（おかず）」「飲み物」「菓子・調味料類」について尋ねました。主食では「レトルトご飯」が、副食では「魚の缶詰」が、飲み物では「水」と回答した人が最も多くありました。菓子・調味料類

では「チョコレート」「あめ・キャラメル」と回答した人が過半数を占めていました。



図1 (%) ※世帯の代表者(非常食の用意を担当している者)が回答

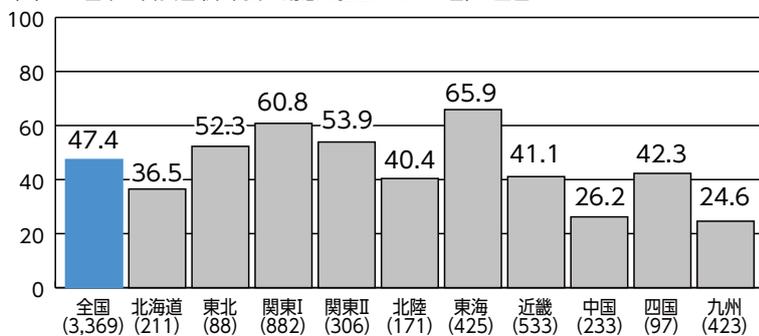


表1

配布枚数	1,577枚
回収枚数	1,087枚
回収率	68.9%

図2 年齢

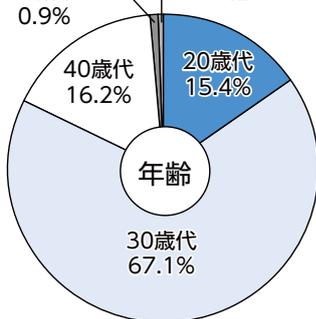
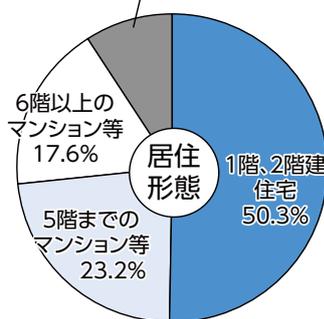


図3 居住形態



北摂

震災を見つめ直し、防災・減災のための準備を

―納涼会で神戸市防災センター訪問

東日本大震災から3年半、早くも記憶の薄れが指摘され始めています。

阪神・淡路大震災からも、

来年の1月で20年の節目を迎えます。子どもたちの命を預かる私たちにとって、震災の記憶を蘇らせることには大きな意義があります。

7月29日に神戸市にある「阪神・淡路大震災記念人と防災未来センター」を訪ねました。

まず震災の追体験ができる「1.17シアター」へ。地



当時の記憶を蘇らせる1.17シアター

震による破壊のすさまじさを大型映像と大音響で体験しました。震災の記憶フロアでは被災された方々の状

況が生々しく伝わってくる展示品の数々。防災や減災の体験フロアでは、私たち保育者が次なる災害に向けて準備すべきことの多さに改めて気づかされました。

センターでは展示以外にも、地域防災力の向上や防災政策の開発、安全・安心な市民協働・減災社会の実現に向けた取り組みが進められています。

甚大な被害をもたらす自然災害は、ある日突然発生

どんな場面でも堂々と振る舞えるように

―社会人のテーブルマナー研修

7月29日、太閤園のダイヤモンドホールで大阪府保育部会北大阪ブロック会主催の研修会が開催され、総勢163人が参加。社会人として必要なテーブルマナーを学ぶために各園の保育士などが集まりました。

司会の山田伸先生（大東若竹保育園）が研修の趣旨

を説明、東口房正会長のあいさつの中では社会人として必要なマナーと、受付のマナーについてもお話がありました。

乾杯のご発声は田中信雄副会長より行われ、向原和敏氏（太閤園）によるテーブルマナー研修が始まりました。スライドを使いながら着席の仕方からナプキン、食器の扱い方について

わかりやすく説明。よくある失敗やタブーについてもユーモアを交えながらレクチャーされ、何気なく行いがちなことが失礼な印象を与えること知り、驚く場面もまた、すべてが理にかなっており、合理性に富んでいることに気づかされます。

マナーを身につけることで堂々と振る舞うことができることを学び、緊張しながらも時間を忘れるほど、楽しくおいしい料理を堪能しました。

保育士である前に社会人としてさまざまな場面で求められる正式なマナーを身につけ、人格の向上にもつながると感じ、有意義な研修となりました。

（ひらりす保育園Y・N）



さんぽ

みなさんは普段どんなハサミをお使いでしょうか。そこらへんにある適当なモノだったり、切れ味にこだわってヘンケルスや著名な刀匠の作品でしょうか。最近ではテープがくっつかないように刃がコーティングされたモノや柔らかい紙なども切れるモノ、素材もチタンやセラミック製なども出てきました。

子どもに使わせるハサミは、握るより開く方が難しいこと、安全面などを考慮して以下の観点でハサミを選びます。

- ①手のサイズに合うもの
- ②刃先が丸い

ハサミ考

危険なツールこそ安全な使い方



「切れるほうが切ることには喜びを感じやすい」「切れないと不要な力がいり、かえって危険」

「切れないほうがどんなハサミでも使いこなせるよ

は、小さいころから慣れておくほうがいいという意見が多いですが、かつての子ども用「肥後守」はそんなに切れるものではありませんでした。そのうち研がなくていい折りたたみのカミ

ソリ型にかわり、カッターナイフに進化？しました。保育園でのクッキングは包丁が必需品です。家庭用では大きすぎ、ハサミと同じで手に合わず、危険かもしれません。丸い刃先と大きさをえ気をつければ、いろいろとチャレンジさせた

いものです。危険なツールこそ安全な使い方を身につけておくべきでしょう。

最後にマキユエリアス社やセス社など外国製の子ども用のハサミも選択肢にいられてみれば、選ぶ楽しみも増えるのではないのでしょうか。



向原和敏 飲料課チーフマネージャー